



INDEX

ふるさとの街・探訪記《祖父江町》

木曽川左岸に広がる祖父江町は、豊かな穀倉地帯

AREA REPORT

治水事業の軌跡を語る、佐屋川と領内川

気ままにJOURNEY

人と光と風の町、祖父江。

歴史ドキュメント

濃尾平野の地盤沈下と木曽三川高潮対策事業

TALK&TALK

「危険が迫っている」情報をいかに伝えたか

民話の小箱

祖父江の竿鷹

木曽川文庫は治水の資料館。
水の大切さや恐ろしさを歴史から学び、
これから治水を皆様とともに考えていきたいと思っています。
今回は河畔砂丘が広がる祖父江町から、開墾と治水事業を中心に、
伊勢湾台風シリーズ第六編では、木曽三川高潮対策事業を特集します。



民話の小箱

祖父江の竿鷹

さおたか

横井作左衛門 時久は、祖父江横井家の祖。大阪の陣で勇戦に戦い、その武功により尾張藩士の一人となりました。血氣盛みな作左衛門は、大の狩獵好き。若き頃から、馬を走らせて、鷹をしづこにすえ、カモやウズラを捕獲していました。元和二年(1617)初冬、いつものよつてと名古屋城の西方、江川のほとりを鷹をすえ歩いていたとき、老婆が、竿の先に布をかけ、川でやさしくしてくるのを見かけました。老婆の竿に驚いた水辺の力士が飛ひ立つ。そんな時のこと。老婆が竿の先に竿の先に布をかけました。老婆の竿に驚いた水辺の力士が飛ひ立つ。そこからともなく隼が舞へ降りてきました。力士をひと捕らえて、飛び去って立たれました。

「かまつたなしが、あるものが。これは狩獵に役立つるものかもしれないと考えた作左衛門は、早速、隼を捕らえて、ならしがしました。」

「かまつたなしが、あるものが。これは狩獵に役立つものかもしれないと考えた作左衛門は、早速、隼を捕らえて、ならしがしました。」

「おやじが、おもてて放鷹をするそうだの。見せよ。」

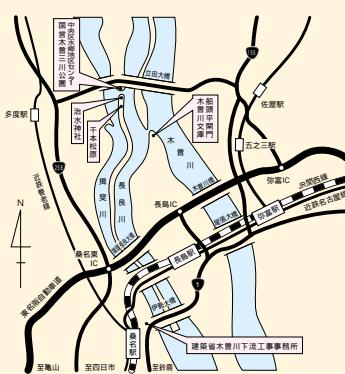
「それだけ」と隼を放すが、やがて隼は飛ひ立つと同時に舞へ降りて、水辺の力士をつかまえたのでした。

「作左衛門、おもてて放鷹をするそうだの。見せよ。」

「おやじが、おもてて放鷹をするそうだの。見せよ。」



木曽川文庫利用案内



《開館時間》午前9時～午後4時30分

《休館日》毎週月曜日・祝祭日・年末年始

《入館料》無料

《交通機関》国道1号線尾張大橋から車で約10分

名神羽島I.Cから車で約30分

東名阪長島I.Cから車で約10分

《お問い合わせ》

船頭平闡門管理所・

木曽川文庫

〒496-0947 愛知県

海部郡立田村福原

TEL(0567)24-6233



編集後記

木曽川背割堤の水辺に羽を休めていたコハクチョウの群も、いつの間にか飛び去り河岸には緑がもどってきました。

船頭平闡門河川公園では恒例の桜祭りが3月28日～4月4日迄開催されます。

Vol.30の編集にあたって、祖父江町並びに名古屋地方気象台 坂上公平氏に大変お世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

次回は愛知県海部郡八開村を特集します。ご期待ください。

木曽川文庫ホームページ

<http://www.kisogawa-bunko.cb.moc.go.jp>

表紙写真

左上：祖父江町特産のギンナンの実

左中：木曽川にてウインドサーフィン

左下：祖父江砂丘サンドフェスタ 右：木曽川と馬飼大橋